

[発表要旨参考例]

「語彙化のパターンからみた英語の構造」

米山三明 (成蹊大学)

言語にみられる語彙化のパターンについては、Talmy (1985[1]) をはじめとして、興味深い研究が積み重ねられてきている。本発表では、このような流れの中にあるものの、日本では従来あまり言及されることのなかった Elizabeth Klipple の研究 (Klipple (1997 [2]) など) を手がかりにしながら、語彙化のパターンという視点から考えた場合、英語の構造がどのように見えてくるかを検討する。Klipple は、英語とフランス語の間にみられる *He entered (*into) the room. / Il est entré *(dans) la salle.* のような違いを基盤として、言語間の差異を前置詞の面から分析しているが、ここでは *enter into a discussion* のような表現の存在も踏まえながら、英語にみられる構造的な特徴を、動詞と前置詞に関する語彙意味論的な分析を通して考える。あわせて、日本語と英語における移動動詞と経路表現の関係についても触れるつもりである。

[1] “Lexicalization Patterns: Semantic Structure in Lexical Forms” [2] “Prepositions and Variation” in Di Sciullo (ed.) *Projections and Interface Conditions*, Oxford.